

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	17-026	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Alcohol consumption and risk of gallstone disease: a meta-analysis. アルコール消費と胆石のリスク		
執筆者		
Wang J, Duan X, Li B, Jiang X.		
掲載誌		
Eur J Gastroenterol Hepatol. 2017, 29(4):19-28.DOI: 10.1097/MEG.0000000000000803		
キーワード		PMID
アルコール消費、胆石、メタアナリシス		27926662
要 旨		
背景： アルコール消費と胆石のリスクとの関連性を調査するために疫学研究が行われてきたが、はっきりとした結論はでていない。そこで、アルコール摂取量と胆石のリスクに関する観察研究からの証拠を定量的に要約するためにメタアナリシスを行った。		
方法： PubMed、Web of Science、および Embase データベースから、アルコール消費と胆石について検討している研究を検索した。ランダム効果モデルを用いて、95%信頼区間 (CI) を有する要約相対リスク (RR) を計算した。3 次スプライン回帰を用いて用量反応関係を評価した。		
結果： 8つのコホート研究と10つの症例対照研究が、メタアナリシスに含まれた。胆石のプールされた RR は、最も高いアルコール消費量に対して 0.62 倍 (95%CI : 0.49-0.78) であった。研究デザインによる層別分析では、統計的に有意な関連が認められた (コホート研究:RR = 0.66, 95%CI:0.48-0.91 および症例対照研究:RR = 0.58,95%, CI:0.45-0.73)。性別に関して、男性 (RR = 0.57, 95%CI : 0.4-0.8) と女性 (RR = 0.64,95%CI : 0.53-0.77) はアルコール消費と胆石のリスクとの間に統計的に有意な関連を示した。アルコール消費と胆石リスクとの間に直線的な用量反応関係が認められ、胆石のリスクはアルコール消費量 10g /日の増加毎に 12%減少した (RR = 0.88, 95%CI : 0.84-0.92, P nonlinearity = 0.079)。		
結論： 本メタアナリシス研究により、アルコール消費が胆石病のリスクを有意に低下させることと関連していることが示唆された。		